

編集後記

研究分野を称してムラと呼ばれることがある。50年前は、人口の過半数がムラで生活し、国土の平らな、田んぼや畑にできそうな場所はすべて耕作するくらいの感じで、皆が身を寄せ合って生活していた。今の農家さんは、機械を使って、各人の事情に合わせて作業しているように見えるが、当時は人海戦術で、それには多数の人をまとめるリーダーシップが必要とされた。天候や、自然災害の影響がとて大きく、能力のある人が勤勉に働いてよい成果が得られるとは限らなかった。リーダーには、財産や、年功で、取りあえず誰でも納得できる人になるようになった。イネが育つ時期はしばしば大雨で田んぼが被害を受けるが、数日も田んぼの水がなくなっていればイネが枯れてしまうから、皆で相談して一番よい方法を決める時間がなくて、リーダーの命令で、大急ぎで、仮に命令が間違っただけでも、工事する必要があった。その結果、ムラの中には信

頼関係と、不信感とがないまぜになっていた。今でも、田んぼに水が行き渡るようにせつかく水門を調整しても、ちょっと目を離れた隙に、誰かが勝手に堰の向きを変えて、田んぼが干上がっていたりする。ムラから民主主義が育つことはなくて、それは政府が支配しやすいようにしていたともいうが、相談している時間もなければ、水もぎりぎりの量しかなく、仕方がなかったようにも思われる。今の農村では、自然と人間の間のバランスが崩れ、動物の被害が甚だしい。シカやイノシシは思うままに田畑を荒らす。知能が高いサルは、はさがけたイネを寒くなるころまで置いておいたりすると、まず使いの者が来て、このままにしておくのかというので、急いで収穫する。放っておくと眷属を従えてきて、稲木からイネを外してみんな食べてしまう。そんなサルも自動車には勝てず、国道で轢かれているが、人間のようなりをしてるので、あまりにも傷ましく、見るに耐えないという。(佐々木 明)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	斧 高一(推薦委員長：研究所助成)	小森 彰夫(推薦委員長：学会賞)
常務理事	室賀 健夫(総務委員長)			
理 事	安藤 晃(企画委員長)	石原 修(研究部会連絡委員長)	上杉 喜彦(支部・地区研究連絡会委員長)	
	甲斐 俊也(財務委員長)	草間 義紀	佐々木浩一	
	清水 克祐	白神 宏之	白谷 正治(年会運営委員長)	
	豊田 浩孝	永津 雅章(広報委員長)	福山 淳	
	堀池 寛	米田 仁紀(編集委員長)		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：米田仁紀(電通大) 副委員長：豊田浩孝(名大)

エディタ：安藤 晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、長友英夫(阪大)、小西哲之(京大)、佐々木浩一(北大)

編集委員：石田 學(JAXA)、井 通暁(東大)、岩本晃史(核融合研)、内田儀一郎(阪大)、浦野 創(原子力機構)、大場恭子(東工大)、落合謙太郎(原子力機構)、笠田竜太(京大)、梶村好宏(明石高専)、糟谷直宏(九大)、佐々木 明(原子力機構)、柴田裕実(阪大)、清水一男(静岡大)、城崎知至(広島大)、鈴木達也(長岡技科大)、高橋和生(京都工繊大)、徳沢季彦(核融合研)、成嶋吉朗(核融合研)、長谷川 純(東工大)、長谷川裕記(核融合研)、林 信哉(九大)、菱沼良光(核融合研)、古川 勝(鳥取大)、増井博一(九工大)、松浦寛人(大阪府立大)、籾内俊毅(阪大)、山田英明(産総研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第90巻第2号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2014年(平成26年)2月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。